



年次報告書
annual report 2017

A large, light blue rectangular area contains the title "年次報告書" (Annual Report) in large, bold, white font, followed by "annual report 2017" in a smaller, regular white font. The background of this area is decorated with numerous small, colorful handprints in shades of blue, white, and yellow, arranged in a scattered, overlapping pattern.

公益財団法人日本 YWCA

目次

若い女性のリーダーシップ養成	2
中高 YWCA 全国カンファレンス 2017	
ひろしまを考える旅 2017	
南京を考える旅 2018	
国連女性の地位委員会（CSW）派遣	
日韓ユース・カンファレンス 2017	
被災者支援活動	6
リフレッシュプログラム（保養キャンプ）	
セカンドハウスプログラム	
YWCA 活動スペース「カ一口ふくしま」	
みんなでエネフェス！	
地域 YWCA での活動	8
熊本地震被災者支援活動	
Local Action（地域 YWCA を中心とした活動）	
国際連帯／アドボカシー	9
寄付報告	10

表紙写真：「南京を考える旅 2017」で日本と中国の
参加者が制作した手形と折鶴の「YWCA」

YWCA (Young Women's Christian Association)

は、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際 NGO です。

1855 年に英国で始まり、現在世界 120 あまりの国で、約 2,500 万人の女性たちが活動しています。

日本 YWCA は、24 の地域 YWCA、35 校の中高 YWCA とともに、女性や子ども、高齢者など、弱い立場におかれている人たちをエンパワーアーと共に、ビジョンに掲げた社会を実現する人材を養成しています。

日本 YWCA の使命（ミッション）

イエス・キリストに学び、共に生きる世界を実現する。
世界の人々と共に人権・平和・環境の問題に取り組む。

日本 YWCA のビジョン

地域で女性達が主体的に活動することを通して、以下の社会をめざします。

1. 平和憲法が生かされ、核も暴力もない社会
2. 女性と子どもの尊厳を守る社会
3. 若い女性がリーダーシップを発揮する社会
4. 多世代・多文化で多様な背景を持つ人びとを尊重する社会

中高 YWCA 全国カンファレンス 2017

2017年8月2日（木）～4日（土）@横浜

「世界につながるいのちのチカラ」



日本YWCAには2017年度現在、全国37の中学校・高校が加盟しています。そして、全国にいる中高YWCAの仲間は723人。これらの学校では、年に1度地区カンファレンス、そして3年に1度全国カンファレンスを持ち、さまざまなテーマで学び、考え、交流しています。

2017年は8月2日（木）から4日（土）まで、横浜にて「中高YWCA全国カンファレンス 一世界につながるいのちのチカラ」を開催しました。中高YWCA加盟校の生徒や顧問など165人が集い、講演会や交流会、フィールドワーク＆ワークショップを通して共に学び合いました。

1日目の講演を担当してくださったのは、渡邊さゆりさん（日本バプテスト神学校教務主任）。「小さながらし種は、小ささゆえに枝を張る大きな木に変身する」という聖書のたとえ話を用いて、私たちには「小さいこと」が必要だと話されました。それは、痛みややぶれ、小さくされた経験が、共感するチカラとなり、痛む人びとの声にならない声、小さな声を身体と魂で聴くことができるからです。それがやがて「世界につながるチカラ」に変えられていくのだということを分かち合いました。2日目のフィールドワーク＆ワークショップは、9つのテーマで学びました。①コリアンタウン・川崎桜本での出会いとふれあい、②日雇い労働者の街（寄せ場）寿町に暮らす人びと、③横須賀で基地と平和を考える、④幕末開港の舞台・神奈川宿から続く横浜の歩み、⑤キリスト教女子教育を支えた人々、⑥甚大な被害が出た横浜の関東大震災、⑦エリザベス・サンダースホームの創設者・澤田美喜の働き、⑧ジェンダー・セクシュアリティとは何か、⑨音楽を通して自尊心を高める。各グループに分かれた生徒たちは、横浜の地に刻まれた課題を見て、聴いて、学び、辿り、出会い、対話し、考えました。

そして、3日目の全体会ではグループごとに、図解や寸劇などの方法で学びの成果を発表しました。

参加者の声

「自分のチカラは小さいから何もできない」とあきらめずに、周りの人たちと協力したり、一つの物事を続けることによって、チカラは大きくなることもあると学んだ。そして、周りの人たちに協力してもらえるような姿勢を整えたり、長い時間の努力が必要だと思う。自分で考え、行動できるようになりたい。その行動が、世界中の誰かのためになってほしいと思う。」



ひろしまを考える旅 2017

2017年8月9日(水)～12日(土)@広島



「HIROSHIMA から考える平和の根っこ」

「ひろしまを考える旅」は、核兵器による惨事を二度と繰り返さないために、平和の大切さを学び、平和な世界を実現したいと願い、広島の地で実施する2泊3日（オプショナルツアー参加の場合は3泊4日）のプログラムです。全国の中高生・大学生を中心に、留学生、韓国と中国からの参加者等、多文化・多世代が参加。被爆証言を聴き、広島平和記念資料館見学やフィールドワーク、グループ討議など、参加者は五感を研ぎ澄ませてひろしまの経験を追体験し、平和について考えます。2017年度のテーマは「HIROSHIMA から考える平和の根っこ」。広島は、廣島・ヒロシマ・広島・ひろしま・HIROSHIMA といろいろな文字で表されます。なぜ違う文字で表現されるようになったのか。その意味や込められた想いを考え、答えを探す旅になりました。多くのユース参加者が、多文化・多世代の参加者と共に学び、少人数でのディスカッションを繰り返すことで、自らの思考・行動の「枠」に気づき、多様な価値観に触れることができました。

*本プログラムは、(公財)ヒロシマ平和創造基金「ヒロシマピースグラント2017」の助成を受けて実施しました。

参加者の声

「被爆者の方のお話はすさまじく、声から伝わってくる感情を思い、またその空気が現実味を持って、本当にその日ヒロシマで起きたことを感じられる、そんな被爆された方のお話を聞くことができて本当に良かったと思う。平和とは一体何なのか。正直に言うとまだまだ気持ちが整理できず、重たさを感じている。きっとこの重たさが知った責任、私はもっと考えていかなければいけないのだと思う。」（中学生）

「広島平和記念資料館の映像や『この世界の片隅に』の記事、向井牧師のお話などで、原爆が落とされたのは、人々が普通に暮らす街だったことを実感した。広島平和記念公園は盛り土をして作られたと知り、広島の地面の下には今も被ばく者が眠っていることを忘れずにいようと思った。」（大学生）



南京を考える旅 2018



2018年3月9日(金)～13日(火)@中華人民共和国・南京市

「平和の道を共に行こう」

「ひろしまを考える旅」の姉妹プログラムとして2007年に始まり、今回4回目となる「南京を考える旅」は、中国YWCA・日本YWCAの共催、南京YWCA・YMCAの協力によって開催される、平和交流プログラムです。今回の旅には日本から20名(ユース12名、シニア8名)が参加し、中国各地域YWCAからは30名の参加者と20名の職員が参加、70名程度のプログラムとなりました。フィールドワークとして主に2つの場所を訪れました。「南京利済巷慰安所旧跡陳列館」は、日本軍の慰安所であったところをそのまま記念館にしたものです。たくさんの「慰安婦(軍事性奴隸)」とされた方々の写真(左)と、当時そのままの部屋、使われた医療器具などが残されていました。

もう1つは「侵華日軍南京大虐殺遭難同胞記念館」。「万人坑」と言われる虐殺された人々の遺体が積み重ねられ捨てられた場所がそのまま記念館になっています。そのほか、2つの基調講演、グループディスカッションを中心に、中国・日本の参加者の間での体験の共有と分かち合いが行われました。踊り、劇、歌、アートなどさまざまな形で、言葉の壁を越えた発表がなされました。最後のプログラムで「平和の道を共に歩んでいきたい」という願いの中で、みんなで一緒に歩き、足跡によって平和の象徴である鳩の絵を作り上げました。(写真右)



国連女性の地位委員会(CSW)派遣

2018年3月8日(木)～19日(日)@米国・ニューヨーク

「農山漁村女性と少女のジェンダー平等とエンパワメントのための課題と機会」

日本YWCAは、若い女性が国際的なリーダーシップ・トレーニングに触れる機会として、「国連女性の地位委員会(Commission on the Status of Women(CSW))」に参加者を派遣しています。2018年3月は、6人のユースを含む7人を派遣しました。

参加者たちは、4ヶ月かけて準備を重ね、国連でのCSW本会議に平行して開催されるNGOの「パラレルイベント」として、アジア女性資料センターと共に『若い女性の視点から見た日本のジェンダー平等政策』というイベントを実施しました。同イベントで、発表者となった若い女性たちは、それぞれの視点・経験を通じて日本のジェンダー平等政策の現状について説明し、課題を指摘しました。同イベントには70人の参加があり、盛んな質疑応答がなされました。

このほか、参加者たちは、国連での本会議の傍聴、世界YWCAが開催する若い女性のためのオリエンテーション、世界各国のNGOが主催するさまざまなイベントへの参加、オーストラリア政府が主催した若い女性との朝食会、日本政府とNGOの会合、ニューヨーク市内のYWCA訪問、世界YWCAが立案者でもある「CSWユース・フォーラム」への参加などを通じて、世界各国のYWCAの仲間や女性たちの活動に出会いました。



日韓ユース・カンファレンス 2017

2018年2月23日（金）～26日（月）@大阪

「私たちの生きづらさを考える～社会的承認と貧困～」



日韓ユース・カンファレンスは、日本と韓国の30歳以下のユースが3泊4日、寝食を共にしながら両国に共通するさまざまな問題について共に学び、考える草の根の国際交流プログラム。企画・運営は、ユースを中心とした実行委員会が担います。日本から20名、韓国から21名が参加し、両国のユースにとって身近な課題である「生きづらさ」について理解と想いを深めました。

初日は、金香百合さん（HEAL ホリスティック教育実践研究所所長）による講演を通じて、現代社会の課題とそこに生きる若者の現状を包括的に学びました。2日目は終日フィールドワーク。国内最大のコリアンタウン・鶴橋では、在日コリアンの人々がつくりあげ、共に歩んできた地域の歴史と、ヘイトスピーチや政治的権利、教育に関する権利保障の欠落など、現在、地域が直面している課題について学びました。日本と韓国のYWCAのユースにとって、在日コリアンの人々に対する差別や暴力を「私たちの問題」として捉えるきっかけとなりました。そして、鶴橋を訪問した後は3つのグループに分かれ、それぞれの地域にある社会的養護の施設を見学し、社会的弱者とされたユースを包摂する「セーフ・スペース」の重要性を知りました。

そして3日目には、1年後までに日韓のユースが共に実施するアクションプランが承認されました。参加者はプログラム終了後も、それぞれの場で「私たちの生きづらさ」を解消するためのアクションを起こしていく決意をし、4日間のプログラムは幕を閉じました。

*本プログラムは、公益財団法人日韓文化交流基金の助成を受けて実施しました。



参加者の声

- ・言葉や、3泊4日という短い期間という制約があっても、社会をより良いものにしたい、という共通の目的がある者同士は分かり合えるのだと知りました。フィールドワークやその報告からは、現代日本の多様な貧困のあり方（物質的、関係性、居場所）が見え、同時にそれが日本だけでなく、韓国、世界の社会構造に起因するものだということが学べました。
- ・私の国とは異なる文化があることが分かった。日本人の価値観を知ることができ、マナーと言語も学べた。自分の言葉のように話せなかっただけで、英語や韓国語でコミュニケーションしようと努力し、互いの話を理解できた時、とても嬉しかった。

被災者支援活動

2011年3月11日、あの日に生まれた子どもたちが、20歳になるまで支援を続けようと、「com7300委員会」を立ち上げ、東日本大震災被災者支援に取り組んでいます。「com」はラテン語で「ともに」、「7300」は20年間の日数です。東京電力福島第一原子力発電所の事故から7年、原発事故の終息は程遠く、放射能被災による課題はそれぞれの生活の上に取り残されています。日本YWCAは、リフレッシュプログラム、セカンドハウスプログラム、活動スペース「カーロふくしま」を拠点とした事業、の3本柱で支援活動を行っています。これからも、多くの「小さな声」の叫びを聞きながら、活動を続けていきます。



リフレッシュプログラム（保養キャンプ）



@函館・福島・東京・静岡・名古屋・大阪・福岡・熊本
放射能の影響の大きい地域で日々を暮らす子どもとおとなが、心身ともに
リフレッシュするために実施しているプログラムです。全国各地の地域
YWCAが、それぞれの地域の特色を生かしたプログラムを夏や春の
子どもたちの長期休暇に合わせて行います。海や川での水遊び、キャンプ
場での野外料理、自分たちで作った凧をあげるなど、日常生活の中で
できなくなってしまった「思いっきり遊ぶこと」を体験できる数日間です。
2017年度は8つの地域YWCAで実施。142名が参加しました。

セカンドハウスプログラム

22家族 83名利用

横浜・名古屋・神戸にある3軒のセカンドハウスは、被災者の方々が家族あるいはグループ単位で、また単身の女性が滞在し、自由な時間を過ごせる住居です。子どもがまだ小さい、あるいはきょうだいの年齢差などがあり保養プログラムに参加できない場合、または家族そろってリフレッシュしたい場合など、セカンドハウスを自宅のように利用することができます。2011年からスタートし、夏休みや冬休みを中心に数多くの家族に「第2の我が家」として親しまれています。毎年利用する家族も多く、大家さんとのあたたかい触れ合いによって、日々の生活の不安やストレスから解放される、という声も届いています。これらの住居は、活動に賛同してくださった大家さんから無償で提供していただき、地域のYWCAが管理を担っています。皆さまからのご寄付で、利用者の交通費の一部を補助しています。

利用者の声

- ・4回目の利用で、初めて神戸セカンドハウスを訪れました。多くの方々に我々は助けられているのかと改めて思いました。感謝の言葉しかありません。
- ・父、母、息子の3人で保養に行く機会がありません。貴重な家族での楽しい時間が過ごせました。ありがとうございました。
- ・以前に私と息子は県外に母子避難をしていました。もっと長く続けたかったのですが、やはり金銭面で無理でした。家族でとても楽しい時間を過ごすことができ感謝しています。
- ・家族みんなで歩いて、走って、自転車でスーパーに買い物に行く。こんなあたりまえの事がとても楽しかったです。不安な気持ちが一気に吹き飛びました。

YWCA 活動スペース「カーロふくしま」

のべ 850 名利用

「カーロ」はイタリア語で「親愛なる」「大切な」を意味します。「カーロふくしま」は福島の女性と子どもたちの日々の生活をサポートし、リフレッシュとふれ合いの大切な場所となるよう、2012年11月に開設しました。自由に立ち寄り、日頃話すことのできない心配事について安心して話し合ったり、情報を得たり、共有したりすることができる「セーフ・スペース」（安全な場）として、被災された女性と子どもたちの心身を守り、課題解決の力となることを目指して運営しています。地域の関わりや分かち合いを広げ、生活に癒しと楽しさをプラスするイベントや講座、独立を目指す女性への支援、県内外の保養団体との交流、全国のYWCAが開催するリフレッシュプログラムの案内や、セカンドハウスプログラムの窓口としての利用説明会、高校生を主体とした再生可能エネルギーを学ぶ取り組みなどをおこなっています。ここでの出会いと活動を起点に、自ら起業した利用者や、新たに団体を立ち上げた、子どもをもつ女性たちのグループもあります。



今年度は、新たに「カーロふくしまおはなし会」を開催し、「認定NPO法人いわき放射能市民測定室たらちね」の医師と職員をお呼びしました。福島の女性たちが生活の中で不安に思うことや声に出せないことを、専門家を交えて話し合い、思いを共有しました。

- ・ カーロふくしまおはなし会（2回開催）
- ・ わくわくサンサン教室（5回開催：福島YWCA主催による夏休みの子ども教室）
- ・ 福島Y's カフェ（福島YWCA主催によるワークショップ・4回開催）
- ・ 福ふくマーケット（安心安全な食べ物販売と女性によるワークショップのマルシェ・2回開催）
- ・ 女性が企画した、癒しの空間作りや発酵食のワークショップ
- ・ その他、パステルシャインアート教室、手織り教室などへの会場提供など

ふくしまから考える新しいエネルギー Part3 「みんなでエネフェス！」

2016年度に引き続き、福島県在住の高校生が自然エネルギーの仕組みや使い方を学び、日々の生活に活かし、社会に広めていくことを目的としたプログラム「ふくしまから考える新しいエネルギー」を実施しました。

「Part3」の今年度は、これまでの集大成として、6月から3回の準備会を重ね、9月2日に福島市内にて「みんなでエネフェス！」イベントを開催しました。同イベントは、高校生たちが準備会で福島県内外の再生可能エネルギー（再エネ）について学んだ成果を、自らの企画で多くの方に見て参加してもらい、再エネの未来を楽しく伝えるものです。企画の一つ

「再エネ総選挙」では、参加者それぞれが「推し」の再エネを推薦し、来場者による投票を行いました。



来場者約150名



参加した高校生の声

- ・ 限られた時間の中、自然と役割分担ができ、進められたのが良かった。
- ・ プロにたくさん参加してもらって、話し合いながら深く進められた。
- ・ みんなでいろいろな考えを出し合い、多くの工夫をして準備をしてきたので、当日大成功でよかった。
- ・ 自分で人に何かを伝えるということが経験がなかったので、エネフェスで人に再エネのことを伝えられてよかったです。
- ・ 再エネについて知識を深めることができ、知るだけでなく、いろいろな人に情報を発信することができて良かった。

熊本地震被災者支援活動

2016 年 4 月に震度 7 の地震に見舞われた熊本県の被災者に、日本全国・世界中から支援が寄せられました。熊本 YWCA は、2016 年度から 2019 年度までの 4 年計画のもとに、以下のような被災者支援活動に取り組んでいます。

1. 子どもたちの心のケアのためのデイプログラムと春のわくわくキャンプ
2. 安心して活動できる拠点としての建物の補強
3. 被災した留学生や会員の支援
4. 長期的な活動の担い手の育成や研修（特に若い人材養成のため）
5. 熊本で被災した関係団体への支援

2017 年度は、2018 年 3 月 25 日～29 日に、福島から 15 人、熊本から 15 人の小学生を招待して「わくわくキャンプ」を実施しました。半年以上協議を重ねた熊本 YWCA のユース会員が中心となって運営し、未だに放射性物質の危険のために外での遊びを控えなければならない福島の子どもたち、2016 年の熊本地震で被災した子どもたちに、安心で楽しい 4 泊 5 日のキャンプを提供しました。その他、夏・冬の「デイプログラム」実施、震災で被害を受けた建物の補修、被災した会員・留学生 10 名への見舞金の拠出などを、皆さまのご寄付により実施することができました。



Local Action（地域 YWCA を中心とした活動）

日本中に 24 ある地域 YWCA は、日本の YWCA が取り組む社会貢献活動の拠点となります。2017 年に開始した「LA（Local Action）」は、地域 YWCA が主体となって展開する社会貢献活動を、日本 YWCA が資金提供と広報、また会員・職員の研修などを担う形で応援するものです。第 1 期 LA となる 2017 年度～2018 年度の活動は、2016 年 11 月の全国会員総会で選ばれました。以下はその中間報告です。

ユースのための憲法力フェ

東京・横浜 YWCA

若い人の政治参加を促すため、中学生以上を対象に憲法の学習会を開催。2017 年度は「仕事」「教育」をテーマに 2 回実施。10 代・20 代を中心には延べ 17 名が参加。



会員のリーダーシップ養成を考える - 三市 Y 合同合宿 -

京都・神戸・大阪 YWCA

地域 YWCA で会員活動の中核を担うメンバーが合宿を行い、次世代への継承システム、会員研修、会員組織のあり方等について協議し提言を作成する。2017 年度は京都で 41 名が参加、その後 2 回の合同ミーティングを実施。

全国ユーススキルアップ研修・交流プログラム

熊本・大阪・長崎・福岡・沖縄・京都・神戸 YWCA

全国のユースが交流や意見交換を行い、スキルアップすることで、ユースが YWCA を盛り上げ、地域 YWCA の繋がりをつくる。2017 年度は大阪 YWCA の施設で 18 名が合宿し、今後行いたい活動を協議。



Girls Rock Day Camp

横浜・熊本・福岡・広島・甲府 YWCA

音楽の演奏を通して若い女性が自信・自尊心・支え合いを得ることを目指し、楽器の初心者同士でバンドを組み、ライブを実施。2017 年度は横浜で、11 名が参加。



沖縄とわたしたち・平和とあなた in かながわ

横浜・湘南・平塚 YWCA

神奈川の人が「沖縄」を自分の問題として考え行動するきっかけとして、沖縄の現状を知る報告会、ワークショップ、映画会などを実施する。2017 年度は映画上映会とトーク＆ライブを実施、述べ 303 名が参加した。



YWCA 平和の守り人 ~ 地域のピースマップを作ろう ! ~

函館・広島・札幌 YWCA

広島・函館間の若者交流やプログラムでの活用のため、函館のピースマップを作成する。2017 年度は、学習会とフィールドワークを実施して 25 名が参加。ピースマップを 2000 部作成した。



パレスチナ YWCA 支援／オリーブの木キャンペーン

パレスチナでは、長年続く軍事占領により、人々の生活が脅かされています。JAI（パレスチナ YWCA・東エルサレム YMCA の共同プロジェクト）は、パレスチナの人々の生活に深く根ざしたオリーブの木の植樹という非暴力的かつ世界中の人々が寄付により参加できる方法で、現地の状況を広く伝え、雇用創出、環境保全、生活の安定化をはかる取り組みを行っています。日本 YWCA は、この「オリーブの木キャンペーン」を支援しています。3000 円のご寄付で 1 本のオリーブの苗木を植えることができます。2017 年度は、日本 YWCA から 288 本の苗木を植えるための募金を送りました。

また、日本 YWCA は、パレスチナ YWCA が実施している紛争解決に向けたリーダーシップ・トレーニングや女性の自立のための職業訓練、保育所運営などを支援しています。



インド YWCA 総会／ユース・フォーラム参加

2017 年度は、2017 年 8 月に開催された「ユース・フォーラム」、ならびに 2018 年 2 月に開催されたインド YWCA の総会に、日本 YWCA からメンバーを派遣しました。日本 YWCA から参加したメンバーは、それぞれ、インドにおける女性たちの状況と YWCA の活動について現地のメンバーと共に学び、日本 YWCA の活動を報告して交流・情報交換を行いました。

「インド YWCA ユース・フォーラム」 8 月 8 日～13 日 @デリー
デリーで開催されたユース・フォーラムは、「セーフ・スペース」を主なテーマとして開催されました。ワークショップやパネルディスカッションを通じて、「セーフ・スペース」を形づくる 8 つの要素を具体的に検討し、実際の生活に当てはめて考えました。また、デリー周辺のインド YWCA の活動の現場も訪問しました。



「インド YWCA 総会」 2018 年 2 月 11 日～13 日 @ゴア

第 30 回インド YWCA 総会は、インド・ゴアにて行われ、82 の地域 YWCA より 300 名が参加しました。「暴力に立ち向かう女性たち」をテーマに、基調講演、女性に対する暴力に関する小テーマごとのワークショップやパネルセッションを行いました。総会前にはユースのセッションも持たれ、「セーフ・スペース」を実現するためにユースが何を求めているのか、ユース自身の声を聞きました。



声明・賛同・後援

- ・ 「ヒバクシャ国際署名」
- ・ 米国のトランプ政権によるシリアへのミサイル攻撃とそれを支持した安倍政権への抗議声明（4 月 11 日）
- ・ 「共謀罪」を新設する組織的犯罪処罰法改正案の強行採決に抗議します（5 月 24 日）
- ・ 日本国政府の国連提出の「核兵器廃絶決議案」に抗議し核兵器禁止条約への批准を求める要望書（10 月 13 日）
- ・ 米国大統領による「エルサレムをイスラエルの首都として認定する」発言に反対することを求める要望書（12 月 12 日）
- ・ 国連気候変動枠組み条約 COP23 にて、原子力ロビーによる技術宣伝が許可され、さらに優遇されていたことに対する抗議書簡（Women and Gender Constituency 11 月 24 日）
- ・ 米軍機からの落下物事故への抗議声明（沖縄 YWCA 12 月 28 日）

2017年度も多くの皆さまからご支援をいただきました！

寄付報告

日本 YWCA 賛助費	1,226,000 円
ピースメーカーズ募金	1,952,932 円
東日本大震災被災者支援募金	3,952,395 円
災害時支援募金 (パレスチナ支援、熊本／南アジア洪水被害者支援含む)	772,687 円
オリーブの木キャンペーン募金	849,000 円
世界 YWCA 総会派遣募金	6,000 円
合計	8,759,014 円

2017年度も、多くの皆さまからのご支援・ご協力を誠にありがとうございました。日本YWCAは、2018年度も引き続き、平和で誰もが尊重される社会にむけた女性たちの主体的な活動を支援していきます。

引き続きのご支援・ご協力を何卒よろしくお願ひいたします。

代表理事 実生律子
会長 藤谷佐斗子

日本YWCAの活動をご支援ください。

- ・ ピースメーカーズ募金 平和を創りだす女性のリーダーシップ養成活動に用います。
- ・ 東日本大震災被災者支援募金 被災地の女性と子どもたちを支援する活動に用います。
- ・ 賛助費 日本YWCAの活動全般をご支援ください。
一口年額 3,000円／5,000円／10,000円
- ・ 災害時支援募金 緊急支援活動に用います。
- ・ オリーブの木キャンペーン募金
一口3,000円で、オリーブの木1本をパレスチナに植えます。寄付者には証明書が発行され、植樹された場所に寄付者の名前入りプレートを置きますので、必ずお名前のローマ字表記をお知らせください。
※日本YWCAへの募金／寄付金（賛助費を含む）は、税額控除の対象になります。

銀行振り込み

三井住友銀行 飯田橋支店 普通 1198743 (口座名) 公益財団法人日本YWCA

ゆうちょ銀行 支店名 019 当座預金 023723 コウエキザイダンホウジンニホンワイダブリューシーエー

*銀行振り込みの場合、Eメールで①募金の種類、②ご住所、③お名前を、また、オリーブの木キャンペーン募金の場合は、④お名前のローマ字もお知らせください。

郵便振替

00170-7-23723 (加入者名) 公益財団法人日本YWCA

*通信欄で募金の種類をお知らせください。オリーブの木キャンペーン募金は、お名前のローマ字をお知らせください。

クレジットカードで募金（かざして募金） 右のQRコードから「かざして募金」をクリック

かざして募金からのご寄付は全て、東日本大震災被災者支援事業に使われます。

携帯からご寄付される場合・・・

★ソフトバンクの場合：寄付金は毎月の電話料金に加算されます。

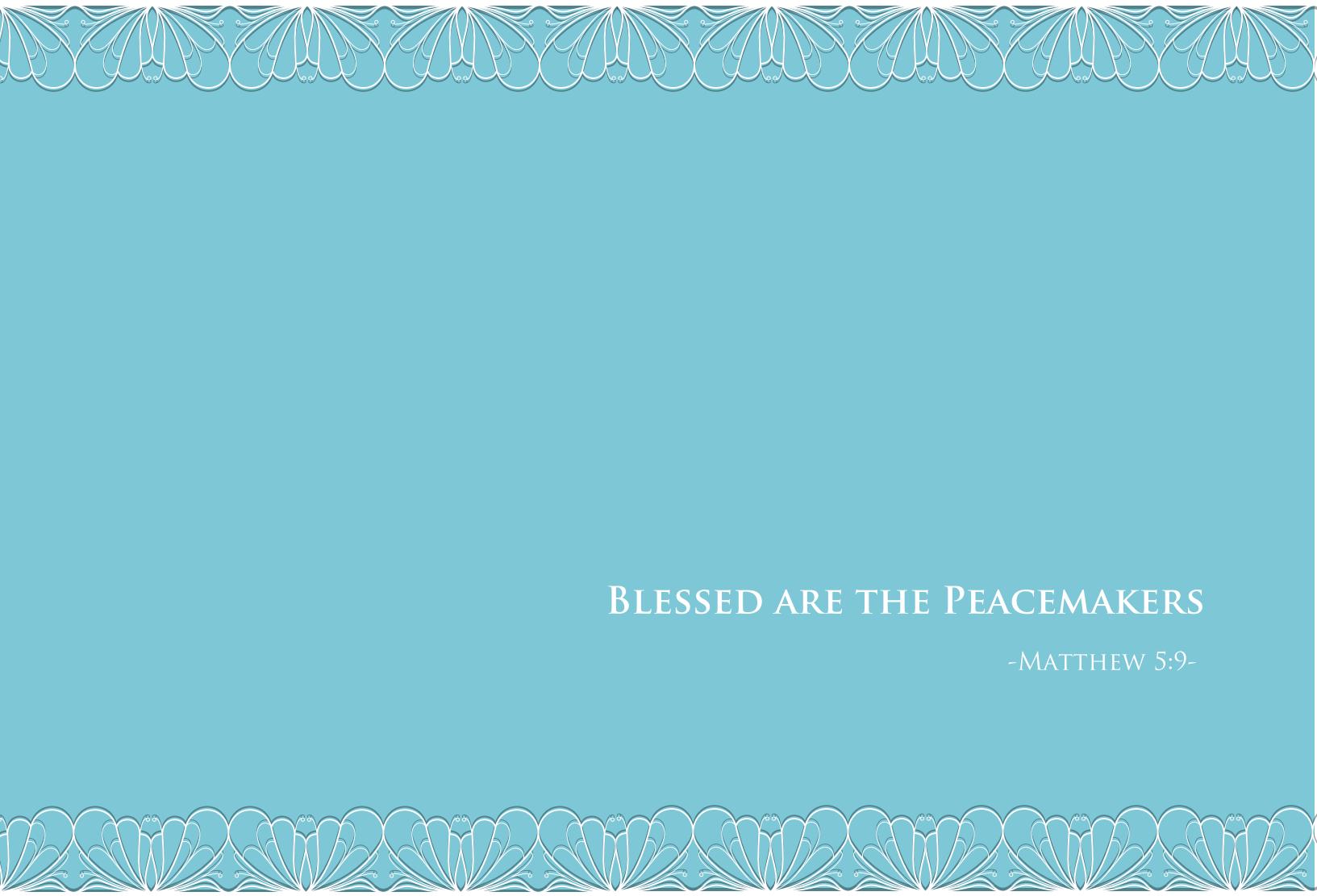
★他の電話会社の場合：寄付金はクレジットカードでのお支払いになります。



 かざして募金

口座振替で募金（カーポふくしまサポーター）

毎月の自動引き落として、東日本大震災被災者支援事業の一つ「カーポふくしま」をご支援いただけます。お申し込みは日本YWCA (office-japan@ywca.or.jp)までEメールにて、お名前・ご住所・お電話番号・メールアドレス、毎年の引落希望額(500円/1000円)をご連絡ください。



BLESSED ARE THE PEACEMAKERS

-MATTHEW 5:9-

公益財団法人日本 YWCA

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1-8-11 東京 YWCA 会館 302 号室
Tel: 03-3292-6121 Fax: 03-3292-6122 Email: office-japan@ywca.or.jp
Website: <http://www.ywca.or.jp>